

令和元・2年度 小林市教育委員会小中一貫教育推進モデル校  
【知育】の研究発表

研究主題

「わかった！できた！」と学ぶ喜びを味わえる児童生徒の育成  
～生き生きと自分の思いや考えを表現できる授業づくりを通して～



令和2年11月6日（金）  
小林市立 野尻小学校

# 野尻中学校区の教育目標

未来を生き抜くための確かな学力、豊かな心、  
たくましいからだをもった子どもの育成

野尻小学校



栗須小学校

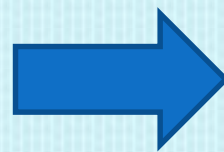


野尻中学校



グローバル化

世の中の急速な変化



新学習指導要領

「未知の状況にも対応できる

思考力・判断力・表現力等の育成」

# 学力向上に関するアンケート

**学力向上に関するアンケート (5・6年生)**

( ) 年 名前 ( )

\*自分にあてはまるところに○をつけましょう。

4 あてはまる                      3 どちらかといえばあてはまる  
2 どちらかなといえばあてはまらない      1 あてはまらない

①	授業では、問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	4	3	2	1
②	自分の考えや意見を進んで発表している。	4	3	2	1
③	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	4	3	2	1
④	先生の話や友達の意見を最後まで聞いている。	4	3	2	1
⑤	授業で文章や資料を読んで自分の意見をまとめたり、書いたりする活動に進んで取り組んでいる。	4	3	2	1
⑥	友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	4	3	2	1
⑦	先生は、授業で学習のめあてやまとめをしっかりと示している。	4	3	2	1
⑧	先生は分かるまででいいに教えてくれる。	4	3	2	1
⑨	授業では、教え合ったり学び合ったり、話し合ったりする時間がある。	4	3	2	1
⑩	家で自分で計画を立てて勉強をしている。	4	3	2	1

アンケートの項目 (表現力に関する項目)	「あてはまる」の割合	
	小 (%)	中 (%)
② 自分の考えや意見を進んで発表している。	27	42
③ 自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	25	20
⑥ 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	48	46



## 本中学校区の児童生徒の課題

- 自分の考えを伝えたり発表したりすること
- 自分の考えを工夫して表現すること
- 自分の考えを深めたり広げたりすること

## 研究主題

「わかった！できた！」と学ぶ喜びを味わえる  
児童生徒の育成

## 副題

生き生きと自分の思いや考えを表現できる授業づくりを通して

表現力を高めるための手立て等

# 学ぶ喜びを味わえる授業デザイン

野尻中学校区版



## 《児童生徒》

・学習道具の準備をする。

・学ぶ意欲を高める。  
・興味関心をもつ。  
・課題を把握する。

・自分の考えをもつ。  
・表現する時は、相手に聞こえる声で根拠を示す。  
・分からないことを残さない。

・分かったことなどを振り返る。

・学習道具を片付ける。  
・家庭学習で振り返る。

授業前

- 学習道具を揃えさせておく。
- チャイムを守る。
- 号令とともに、学習に集中できるようにする。

導入

- 意欲喚起 目的意識 焦点化**
- 導入は、簡潔に、効率的に行う。
  - 学習課題は、児童生徒の実態に応じて精選し、焦点化を図る。
  - 本時の目標を明確にする。
  - 見通しの段階では、解決することは「何か」を明確にする。

展開

- 表現する 学び合う**
- 個人思考の時間を十分に確保する。
  - 自分の考えがまとまらない児童生徒への手立てを講じる。
  - 一人一人が自分の思いや考えを表現する場を設定する。  
(ペア・グループ・全体)
  - 一人一人の状況を確認に見届ける場面や方法を考える。
  - 本時の学習のまとめをする。
  - 習熟の時間を確保する。

ICTの活用(タブレットPCなど)

個人思考

↓

集団思考

↓

個人思考

終末

- 振り返る**
- 本時の学習を通して分かったことなどを振り返らせ、生活場面や今後の学習、児童生徒の将来との関連等について触れる。

授業後

- チャイムを守る。
- 毎時間、授業を振り返り、児童生徒の達成状況を把握する。
- 達成しなかった児童生徒の補充指導の手立てを考える。

## 《教師》

- 実態把握と分析
- 教材研究

- 学習環境の整備
  - ・教材教具
  - ・ICT(タブレットPCなど)
  - ・机の配置 など

- 基本的な指導力
  - ・話し方、速さ
  - ・声の大きさ、トーン
  - ・間
  - ・明確な指示、発問
  - ・時間配分
  - ・板書
  - ・机間指導 など

- 個に応じた指導の充実
  - ・ヒントカード・具体物
  - ・座席表・氏名カード
  - ・リトルティーチャー など

- 評価

- 授業以外の取組の工夫
  - ・家庭学習の進め方
  - ・補充指導の手立て

# 共通指導案形式の作成

## 小学校版

第

指導者 ○ ○ ○ ○

### 1 単元 ○○○○

- \* 明朝体の10.5ポイントが基本。字数等に応じて枠の大きさを変更可。
- \* 本時の授業に絞って書くので、単元目標等は書かない。

### 2 授業デザイン

#### (1) 児童の実態

「○」で始める。「○」のあとは一マス空ける。

\* 本時の授業につながる児童の実態を記入する。

- 本時の授業につながる学習状況（基礎基本の定着度、既存の学習内容 など）
- 学びに向かう児童の実態（学習意欲、思考力、判断力、表現力、話し合い活動の様子など）
- みやぎ学習調査や全国学力調査などの結果 など

#### (2) 本時のゴール（児童の姿）

- 身に付けさせたい資質や能力
- 自分の思いや考えを表現している児童の姿（「表現力を高めるためのポイント一覧」を踏まえて明記する）

#### (3) 指導計画（本時○時間／全○時間）

学習内容	時数

○ 学習内容を書く。時数に合わせて枠数は変更する。  
○ 本時は(○/○)と分かるようにする。  
○ 本時の枠は1.5ポイントの太線で囲む。その他は0.5pt。

#### (4) 手立て・工夫のポイント

- \* 本時に行う教師の手立て・工夫を明記する。（文の初めは○）ただし、「個に応じるための手立て」「表現力を高めるための手立て」の最後には、以下のように文の最後に印を付ける。
  - 個に応じるための手立て（◆）（◇）
  - 表現力を高めるための手立て（☆）
- \* タブレットPCを活用する場合は、有用性をどのように捉えて活用するかをこの欄に明記する。

#### (5) 板書計画

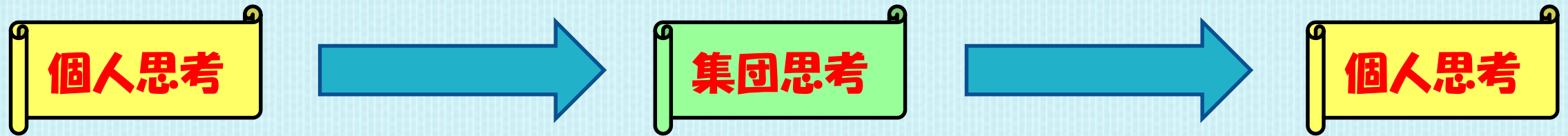
- \* 「めあて」と「まとめ」は必ず書く。
- \* 導入、展開、まとめといった学習や児童の思考が分かる板書にする。
- \* 必要最低限のことを書く。
- \* 線で結ぶなど、構造的にまとめる。
- \* 小見出し等をつけ、事実や説明、児童の意見が分かるようにする。

### 4 学習指導過程 ◆個別の支援を要する児童への手立て ◇発展的な内容に取り組む児童への手立て ☆表現力を向上させるための手立て

時間	学習内容及び学習活動	教師の手立て	評価(方法)
導入、展開、終末の3つに分けて時間を書く。導入はなるべく短く、展開では、個別思考の時間も十分に確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 児童の学習内容や活動を明確に記述する。</li> <li>* 学習活動は、問題解決的な流れを基本とするが、教科、領域によって活動が変わっても良い。</li> </ul> <p>【基本の指導過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時の振り返り</li> <li>2 本時の確認                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題、問題</li> <li>・ めあて</li> <li>・ 見通し</li> </ul> </li> <li>3 自力解決</li> <li>4 全体解決</li> <li>5 本時のまとめ</li> <li>6 習熟、練習</li> <li>7 本時の振り返り</li> </ol> <p>めあてとまとめは、学習活動から教師の手立てまでつながる□囲みをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 目標を達成させるための手立てや工夫を書く。</li> <li>例)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心を高める手立て</li> <li>○ 自分の意見をもたせるための手立て</li> <li>○ タブレットPCの活用 など</li> </ul> </li> <li>* 以下の場合、記述した後に印を入れる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 個別の支援を要する児童への手立て</li> <li>◇ 早く課題が済んだ児童や発展的な内容に取り組ませる児童への手立て</li> <li>☆ 表現力を高めるための手立て</li> </ul> </li> </ul> <p>☆の文は、ゴシック体にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 評価は本時の目標に照らし合わせて、児童の望ましい姿、期待する姿を書く。</li> <li>* 最後に、評価方法を( )の中に入れる。</li> <li>○ △△△することができる。(ノート)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 本時の学習を通して分かったことなどを振り返らせ、生活場面や今後の学習、児童の将来との関連等について触れる。</li> </ul> <p>(例) 「今日の学習では、△△であるということが分かった。○○をするときに今日の学習を使っていきたい。次は、今日の学習を生かして□□についても学習したい。」</p>		



# 表現力の向上を目指す授業



○ 課題を明確にとらえ、集団思考に向けて自分の考えを整理したり表現したりする。

○ 個人思考を基に、自分の考えを友達に伝えたり、考えを比較して聞いたりする。

○ 集団思考を基に、自分の考えを練り直し、まとめていく。



### 《児童生徒》

- 学習道具の準備をする。

- 学ぶ意欲を高める。
- 興味関心をもつ。
- 課題を把握する。

- 自分の考えをもつ。
- 表現する時は、相手に聞こえる声で根拠を示す。
- 分からないことを残さない。

- 分かったことなどを振り返る。

- 学習道具を片付ける。
- 家庭学習で振り返る。

## 「わかった！できた！」と学ぶ喜びを味わえる授業デザイン

授業前

- 学習道具を揃えさせておく。
- チャイムを守る。
- 号令とともに、学習に集中できるようにする。

導入

### 意欲喚起 目的意識 焦点化

- 導入は、簡潔に、効率的に行う。
- 学習課題は、児童生徒の実態に応じて精選し、焦点化を図る。
- 本時の目標を明確にする。
- 見通しの段階では、解決することは「何か」を明確にする。

### 表現する 学び合う

展開

- 個人思考の時間を十分に確保する。
- 自分の考えがまとまらない児童生徒への手立てを講じる。
- 一人一人が自分の思いや考えを表現する場を設定する。  
(ペア・グループ・全体)
- 一人一人の状況を確認に見届ける場面や方法を考える。
- 本時の学習のまとめをする。
- 習熟の時間を確保する。

個人思考

↓  
集団思考

↓  
個人思考

### 振り返る

終末

- 本時の学習を通して分かったことなどを振り返らせ、生活場面や今後の学習、児童生徒の将来との関連等について触れる。

授業後

- チャイムを守る。
- 毎時間、授業を振り返り、児童生徒の達成状況を把握する。
- 達成しなかった児童生徒の補充指導の手立てを考える。

ICTの活用(タブレットPCなど)

野尻中学校区版



### 《教師》

- 実態把握と分析
- 教材研究

- 学習環境の整備
  - 教材教具
  - ICT(タブレットPCなど)
  - 机の配置 など

- 基本的な指導力
  - 話し方、速さ
  - 声の大きさ、トーン
  - 間
  - 明確な指示、発問
  - 時間配分
  - 板書
  - 机間指導 など

- 個に応じた指導の充実
  - ヒントカード・具体物
  - 座席表・氏名カード
  - リトルティーチャー など

- 評価

- 授業以外の取組の工夫
  - 家庭学習の進め方
  - 補充指導の手立て

# めざす表現力の明確化

## めざす表現力一覧（小学校）

- まず「小学校学習指導要領解説国語編」に示された「正確に理解し適切かつ豊かに表現する」上で必要な資質・能力は、解説記事の中から本研究に関連する部分を洗い出した。  
これらを、項目毎の系統を明確にしながら「学習のきまり」等との関連や整合も考慮しつつ、本校区において特に力を注ぎたいものを整理した。

	【低学年】	【中学年】	【高学年】
書く	○学習した漢字、平仮名、片仮名、身近なことを表す言葉などを使って！	○学習した漢字、ローマ字、ことわざ、慣用句、故事成語、様子や気持ちを表す言葉などを使って！	○学習した漢字、比喩や反復、引用、グラフ、思考に関わる言葉などを使って！
	○簡単な構成を考えて！ (事柄の順序)	○構成を考えて！ (中心の明確化、段落作り、段落相互の関係)	○文章全体の構成や展開を考えて！ (筋道の通った文章)
	○見聞、思い、伝えたいこと、感じたこと、想像等を！ (身近なこと、経験、観察、日記、手紙、簡単な物語等)	○事実、考え、伝えたいこと、感じたこと、想像等を！ (調べたことの報告、行事案内、お礼の手紙、詩や物語等)	○考え、伝えたいこと、感じたこと、想像、事実や経験の自分にとっての意味等を！ (事象の説明、意見、短歌、俳句等)
	○推敲しながら！ (間違い、文・語の続き方)	○推敲しながら！ (間違い、相手や目的を意識した表現)	○推敲しながら！ (全体の構成、書き表し方)
話す	○行動や経験に基づいて、話す事柄の順序を考えながら！	○理由や事例等を挙げて、話の中心を明確にしながら！	○事実、感想、意見を区別しながら！
	○声の大きさや速さ等を工夫して！ (内容や相手に応じて)	○言葉の抑揚、強弱、間の取り方等を工夫して！ (中心や場面を意識して)	○考えが伝わるように表現を工夫して！ (資料の活用等)
聞く	○聞き落とさないように！	○必要なことを記録したり質問したりして！	○目的や意図に応じて！
	○話の内容を捉えながら！	○話の中心を捉えながら！	○考えを比較しながら！
話し合う 伝え合う	○身近なことや経験したことから話題を決めて！	○日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして！	○日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして！
	○相手の発言を受けて話をつなぎながら！	○互いの意見の共通点や相違点に着目しながら！	○互いの立場や意図を明確にしながら！
	○自分なりの感想をもつ。	○自分なりの考えをまとめる。	○自分の考えを広げたりまとめたりする。

小中9年間でどのような力を身に付けさせるかが、系統的に分かる。



# 共通指導案へ

**小学校版** 第○学年○組 ○○科学習指導案 令和○年○月○日 指導者 ○○ ○○

3 本時の目標 ○～できる。 具体的かつ明確に記述する。

1 単元 ○○○○

- \* 明朝体の10.5ポイントが基本。字数等に応じて枠の大きさ
- \* 本時の授業に絞って書くので、単元目標等は書かない。

2 授業デザイン

(1) 児童の実態

「○」で始める。「○」のあとはマス空ける。

- \* 本時の授業につながる児童の実態を記入する。
- 本時の授業につながる学習状況（基礎基本の定着度、既存の学習内容 など）
- 学びに向かう児童の実態（学習意欲、思考力、判断力、表現力、話し合い活動の様子）
- みやざき学習調査や全国学力調査などの結果

(2) 本時のゴール（児童の姿）

- 身に付けさせたい資質や能力
- 自分の思いや考えを表現している児童の姿（「表現力を高めるためのポイント一覧」を踏まえて明記する）

(3) 指導計画（本時○時間/全○時間）

学習内容
○ 学習内容を書く。時数に合えば変更する。
○ 本時は(○/○)と分かるよう
○ 本時の枠は1.5ポイントのむ。その他は0.5pt.

(4) 手立て・工夫のポイント

- \* 本時に行う教師の手立て・工夫を明記する。（文の初めは○）

(5) 板書計画

- \* 「めあて」と「まとめ」は必ず書く。
- \* 導入、展開、まとめといった学習や児童の思考が分かる板書にする。
- \* 必要最低限のことを書く。
- \* 線で結ぶなど、構造的にまとめる。
- \* 小見出し等をつけ、事実や説明、児童の意見が分かるようにする。

児童の将来との関連等について触れる。

(例) 「今日の学習では、△△であるということが分かった。○○をするときに今日の学習を使っていきたい。次は、今日の学習を生かして□□についても学習したい。」



# 表現力の基礎づくりの工夫

## 話し合いの進め方

話し合いの基本となる形です。そのときによって自分たちなりに考えて進めるともっと楽しく話し合いが進みますよ。

これから --- について話し合いを始めます。

- ※ 話し合いの内容の例
  - ・今日はみんなの意見（考え）を聞く。
  - ・今日はみんなの意見をまとめる。

〇〇さんから、自分の考えを発表してください。

- ※ 話し合いの仕方
  - ・全員発表してからよりよい意見（考え）にしていく。
  - ・一人の意見（考え）について順番に話し合っていく。

わたしは・・・と思います。  
なぜかというと・・・だからです。

〇〇さんに質問はありませんか。

- ・・・はどうしてですか。
- ・・・は---という意味ですか。
- ・・・についてもう少し詳しく教えてください。

おなじ考えやちがう考えの人はいませんか。

- ・わたしは・・・というところが同じです。（ちがいます。）
- ・でも、---というところはちがいます。（同じです。）
- ・わたしは〇〇さんの考えがよいと思います。  
なぜかというと・・・だからです。

かんがえをまとめます。---という意見が多いので、---に決定します。

これで、---について話し合いを終わります。

終わります。

発表・発言の基本型				
質問のとき	付け加えのとき	違うとき	同じとき	意見を言うとき
<p>▽ 「質問があります。」 ↓手をあげる</p> <p>「〇〇さんに質問します」</p> <p>〇〇さんはどうして〇〇と考えましたか。」</p> <p>「分かりました。ありがとうございます。」</p>	<p>▽ 「付け加えます。」「似ています。」「 ↓手をあげる</p> <p>「〇〇さんの意見に付け加えて（に似ていて）」</p> <p>私は〇〇もある（だ）と思います。 理由は△△だからです。（△△と違うからです。）</p>	<p>▽ 「他にもあります。」「 ↓手をあげる</p> <p>「私は〇〇さんと違って〇〇だと思います。」</p> <p>理由は△△だからです。（△△と違います。）」</p>	<p>▽ 「同じです。」「 ↓手をあげる</p> <p>「私は〇〇さんと同じで〇〇だと思います。理由は△△です。」</p>	<p>▽ 「はい。」「 ↓手をあげる</p> <p>「私は□□だと思います。理由は△△だからです。」</p>
<p>どんな理由で なぜ どうして</p>	<p>また しかも その上 さらに</p>	<p>しかし けれど ところが</p>	<p>要するに すなわち</p>	<p>理由は なぜなら たとえば</p>





# スピーチ活動



# ノート展





# 個に応じた指導の充実

- ・明確な指示、方向
- ・時間配分
- ・板書
- ・机間指導 など

- 個に応じた指導の充実
  - ・ヒントカード・具体物
  - ・座席表・氏名カード
  - ・リトルティーチャー など

## ■ 評価

## ■ 授業以外の取組の

### つくる授業デザイン

### 焦点化

精選し、焦点化を図る。

「可か」を明確にする。

どう

の手立てを

る場を設定す

・全体)

め方法を考える。

↓  
■ 集団思考

↓  
■ 個人思考

ICTの活用(タブレット活用)

を振り返らせ、生活場  
関連等について触れる。

の達成状況を把握する。

の手立てを考える。

野尻中学校区版



### 《教師》

- 実態把握と分析
- 教材研究

- 学習環境の整備
  - ・教材教具
  - ・ICT(タブレットPCなど)
  - ・机の配置 など

- 基本的な指導力
  - ・話し方、速さ
  - ・声の大きさ、トーン
  - ・間
  - ・明確な指示、発問
  - ・時間配分
  - ・板書
  - ・机間指導 など

- 個に応じた指導の充実
  - ・ヒントカード・具体物
  - ・座席表・氏名カード
  - ・リトルティーチャー など

### ■ 評価

- 授業以外の取組の工夫
  - ・家庭学習の進め方
  - ・補充指導の手立て

# 共通指導案へ

**小学校版** 第〇学年〇組 〇〇科学習指導案 令和 年 月 日 指導者 〇〇 〇〇

1 単元 〇〇〇〇

2 授業デザイン  
(1) 児童の実態

3 本時の目標  
〇 ~できる。

4 学習指導過程

時間	学習内容及び学習活動	教師の手立て	評価(方法)
導入	* 児童の学習内容や	* 目標を達成させる	* 評価は本時の

## 3 本時の目標

〇 ~できる。

具体的かつ明確に記述する。

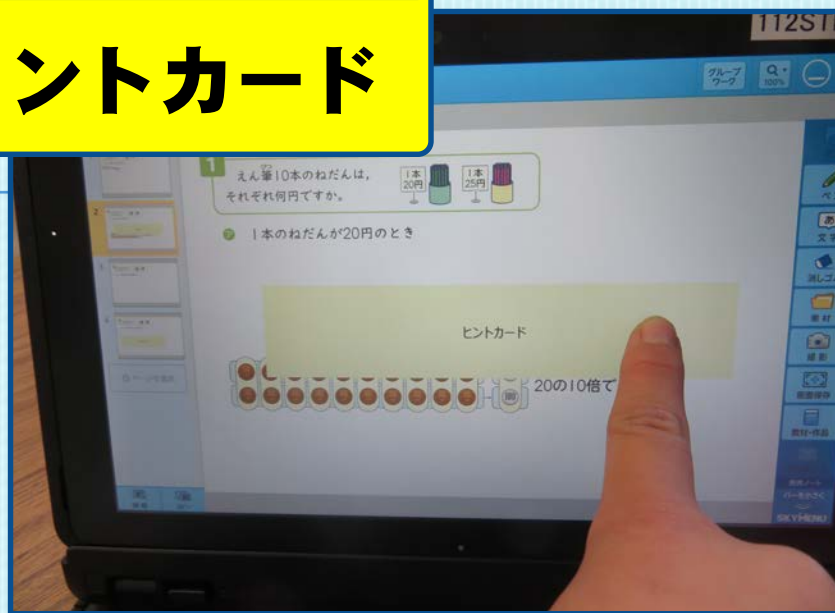
## 4 学習指導過程

◆個別の支援を要する児童への手立て ◇発展的な内容に取り組む児童への手立て

☆表現力を向上させるための手立て

時間	学習内容及び学習活動	教師の手立て	評価(方法)
	<p>(1) 板書計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「めあて」と「まとめ」は必ず書く。</li> <li>* 導入、展開、まとめといった学習や児童の思考が分かる板書にする。</li> <li>* 必要最低限のことを書く。</li> <li>* 線で結ぶなど、構造的にまとめる。</li> <li>* 小見出し等をつけ、事実や説明、児童の意見が分かるようにする。</li> </ul>	<p>分に確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 本時の学習を通して分かったことなどを振り返らせ、生活場面や今後の学習、児童の将来との関連等について触れる。</li> </ul> <p>(例) 「今日の学習では、△△であるということが分かった。〇〇をするときに今日の学習を使っていきたい。次は、今日の学習を生かして□□についても学習したい。」</p>	

## ヒントカード



## 具体物



## 座席表



## リトル ティーチャー





# タブレットPC活用の工夫

## タブレットPCの有用性と活用メリット

野尻中学校区全校に整備されたタブレットPCを、授業の中で有効に活用するためには、まず、メリットや留意点等について明確にする必要があると考えた。

そこで、市内外の先行研究等を参考にしながら、本校区における実践において特に留意する事項を絞り込んで整理し、それらを踏まえながら実践に取り組むことにした。

### 1 一般的なタブレットPCの有用性

即時性	閲覧性	編集性	容易性
<ul style="list-style-type: none"> <li>画面を即座にTVに転送できる。</li> <li>双方向でのデータのやりとりができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同一画面を一齐に閲覧できる。</li> <li>同一画面をグループごとに見ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面に書き込める。</li> <li>簡単に修正できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチパネルが使える。操作が容易である。</li> </ul>
個別性	保存性	多機能性	携帯性
<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の状態や発達段階に応じて、個別に使用できる。</li> <li>画面や写真を個別に提示できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面や写真等のデータを保存できる。</li> <li>保存速度が速い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCの機能がある。</li> <li>カメラ機能がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイズが小さく、軽量である。</li> <li>場所や姿勢を問わず使える。</li> </ul>

### 2 授業におけるタブレットPCの有用性

段階	効果的な活用例	各段階共通
主として導入段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心の喚起</li> <li>既習内容の振り返り</li> <li>課題等の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面や資料等の一斉送信や表示</li> <li>個々の状況の把握</li> <li>障がいのある児童生徒の補助</li> </ul>
主として展開段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットによる調査やまとめ</li> <li>学習状況の確認と個別指導への活用</li> <li>相互の比較や伝え合い及び協議等</li> <li>抽出画面の表示や配信</li> </ul>	
主として終末段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のまとめ</li> <li>習熟問題等への取組</li> <li>作成した画面（ノート等）の保存や回収</li> </ul>	

### 3 タブレットPC活用時の留意点

- 起動しないと、教材や資料、作成したノート等を確認することができない。
- 予期せぬ通信系のトラブルが生じることがある。
- 教師及び児童生徒とともに、タブレットPCや授業支援ソフトを操作するために必要な一定の技能を習得することが欠かせない。
- 活用過多になると、漢字力等の低下が懸念される。

## 「わかった！できた！」と学ぶ喜びを味わえる授業デザイン

- 学習道具を揃えさせておく。
- チャイムを守る。
- 号令とともに、学習に集中できるようにする。

### 意欲喚起 目的意識 焦点化

- 導入は、簡潔に、効率的に。
- 学習課題は、児童生徒の実態に応じて課題を定める。
- 本時の目標を明確にする。
- 見通しの段階では、解決することは「何か」を明確にする。

### 表現する 学び合う

- 個人思考の時間を十分に確保する。
- 自分の考えがまとまらない児童生徒への手立てを講じる。
- 一人一人が自分の思いや考えを表現する場を設定する。  
(ペア・グループ・全体)
- 一人一人の状況を確認に見届ける場面や方法を考える。
- 本時の学習のまとめをする。
- 習熟の時間を確保する。

### 振り返る

- 本時の学習を通して分かったことなどを振り返らせ、生活場面や今後の学習、児童生徒の将来との関連等について触れる。

- チャイムを守る。
- 毎時間、授業を振り返り、児童生徒の達成状況を把握する。
- 達成しなかった児童生徒の補充指導の手立てを考える。

ICTの活用(タブレットPCのみ)

野尻中学校区版



### 《教師》

- 実態把握と分析
- 教材研究

- 学習環境の整備
  - ・教材教具
  - ・ICT(タブレットPCなど)
  - ・机の配置 など

- 基本的な指導力の充実
  - ・話し方、速さ
  - ・声の大きさ、トーン
  - ・間
  - ・明確な指示、発問
  - ・時間配分
  - ・板書
  - ・机間指導 など

- 個に応じた指導の充実
  - ・ヒントカード・具体物
  - ・座席表・氏名カード
  - ・リトルティーチャー など

### ■評価

- 授業以外の取組の工夫
  - ・家庭学習の進め方
  - ・補充指導の手立て



# タブレットPC活用例

3年

国語	算数	社会	理科	音楽	図工	体育	外国語
○漢字の練習 (漢字検定アプリを使用)	○計算問題 ・計算ドリルを使用して、問題を早く正確に解く。 ○文章問題の立式の説明を書いたり、書き込んだりする。	○見学が終わった後に ・各グループで分かったことなどをまとめて新聞づくりの資料とする。	「電気で明かりをつけよう」 ・電気を通すもの通さないものの分類	○表現 ・教師の模範演奏を動画撮影し、正しい指使いを確認する。お手本を見ながら練習する。 ・合奏の様子を撮影し、客観的に振り返りを行うことで、次の練習につなげる。 ○鑑賞 ・聴きながら感じたことや気づいたことをメモし、文章作りに生かす。	○道具の使い方 ・事前に教師が使用している映像を撮っておき、手元を拡大して画面に映して示す。 ○完成した作品を撮りためておき、国語科「これがわたしのお気に入り」に活用する。 ○作成の過程をとっておき、振り返りに使用する。		○発音練習 ・ALTの発音の様子を撮影し、発音練習をする。 ・英語でのやりとりを動画に撮って紹介する。
「ローマ字」 ・読み書きを練習する。 ・タイピングの練習をする。	「表とグラフ」 ・ジャストスマイルのグラフ機能を使って、棒グラフをかく。	「学校のまわりの様子」 ・白地図に地図記号スタンプなどを活用して地図をつくる。 ・プリントしてノートに貼る。	「身近なしぜんのかんざつ」 ・撮影した写真に直接気づきや考えを記入	「音のスケッチ」(いろいろな声で表現して遊ぶ)。 ・どんなイメージで声を出したいか、発表ノートに自由に書いて考える。(色、太さ、字体を変える)	「わたしの6月の絵」 ・6月らしいものを写真に撮り、絵を描く際の参考にする。	「ボールゲーム」 「サッカー型ゲーム」 ・グループごとの作戦会議の際に、シートに作戦を書き込む。	「ユニット6」 ・アルファベットの仲間分けをする。
「春/夏/秋/冬のくらし」 ・マッピング機能を使って季節の言葉をたくさん出し、文章を書く際に役立てる。	「図を使って考えよう」/「何倍でしょう」 ・線分図に表して問題を解く。	「わたしたちの市の様子」 ・白地図を配って、ペイント機能で色や記号を入れていく。 →土地、道路などそれぞれで作成して最後に重ねられるとよい。	「かけのでき方と太陽の光」 ・天候に左右されがちな実験→予め実験しておきその様子を見せる	「小さな自分のお気に入り」 ・選んだ場所やしたいことややりたいポーズを考え、写真を撮影する。	「運動会の表現(ダンス)」 表現活動において、振り付けを撮り、再生することで練習に使用する。	「ユニット8」 ・クイズ大会での3つのヒントを提示する際に使用する。	
「山小屋で三日間過ごすなら」/「はんで意見をまとめよう」 ・ふせんに自分の考えを記入し、画面合体で共有する。		「工場で働く人々の仕事」 ・画像を読み込み、分かったことや気づいたことを書き込ませる。	○植物の成長過程 ・蕾や実などの段階ごとの写真を撮影し、気づきや発見を記入	「身近な自然の色・形」 ・作品の写真を撮影し鑑賞会をする(気づきや上手なところを書き込む)	「鉄棒遊び」「マット運動」「走り幅跳び」 ・追っかけ再生機能を使用し、実践した後の振り返りをする。		
「ことわざ・故事成語」 ・好きなことわざや故事成語の意味と文例を書いてカードを作成し、班ごとにまとめて発表する。	「三角形」 ・正三角形や二等辺三角形の敷き詰めをする。	「市のようすとくらしのうづりかわり」 ・見学先で道具の写真をとってきて、グループごとにまとめる。(撮影可であれば)	○観察できる力・考える力(結果が理由になって自分の考えを表現させる)				
「これがわたしのお気に入り」 ・マッピング機能を利用して、紹介したい作品とそれにまつわる出来事を思い出して書き出す。	○デジタル教科書の活用 ・練習問題を解く。 ・QRコードを読み込み、考えを広げる。		○観察できる力・考える力(結果が理由になって自分の考えを表現させる)				
			○表やグラフを読み取る力が高まる				
			○積極的な活動が期待できる(発言や発表)				



【第3学年タブレット活用例】

# タブレットPC活用の工夫

## タブレットパソコン<sup>りょうやくそく</sup>利用の約束

野尻小・栗須小

- ・タブレットパソコン<sup>つか</sup>を使う<sup>まえ</sup>前に手<sup>て</sup>をきれい<sup>あら</sup>に洗<sup>あ</sup>います。
- ・タブレットパソコンは、大切<sup>たいせつ</sup>に使<sup>つか</sup>います。
- ・先生<sup>せんせい</sup>の指示<sup>しじ</sup>以外<sup>か</sup>では勝手<sup>かって</sup>にさわ<sup>つか</sup>ったり、使<sup>つか</sup>ったりしません。
- ・使<sup>つか</sup>わない物<sup>もの</sup>は机<sup>つくえ</sup>の中<sup>なか</sup>にしま<sup>ま</sup>います。
- ・平<sup>たい</sup>らな所<sup>ところ</sup>に置<sup>お</sup>いて使<sup>つか</sup>います。
- ・持<sup>も</sup>つ時<sup>とき</sup>は、両<sup>りょう</sup>手<sup>て</sup>で持<sup>も</sup>ちます。
- ・画<sup>が</sup>面<sup>めん</sup>は強<sup>つよ</sup>く押<sup>お</sup>さずやさしく押<sup>お</sup>します。
- ・絶<sup>ぜ</sup>対<sup>たい</sup>にとが<sup>た</sup>った物<sup>もの</sup>や固<sup>かた</sup>い物<sup>もの</sup>で触<sup>さわ</sup>りません。  
(手<sup>て</sup>やタッ<sup>た</sup>チペ<sup>ぺ</sup>ンを使<sup>つか</sup>います。)
- ・困<sup>こま</sup>った時<sup>とき</sup>は勝手<sup>かって</sup>に操<sup>そう</sup>作<sup>さく</sup>せず、先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>に確<sup>かく</sup>認<sup>にん</sup>します。
- ・タブ<sup>た</sup>ブレ<sup>ぶ</sup>ッ<sup>ぶ</sup>ッ<sup>つ</sup>パソコンを終<sup>しゅう</sup>了<sup>りょう</sup>する時<sup>とき</sup>は、シャ<sup>し</sup>ッ<sup>つ</sup>ダウ<sup>う</sup>ンした<sup>た</sup>こ<sup>こ</sup>を確<sup>かく</sup>認<sup>にん</sup>してか<sup>か</sup>ら片<sup>か</sup>づ<sup>づ</sup>け<sup>け</sup>ます。



# 授業力向上の取組

【わかった！できた！ 授業及びビデオ振り返りカード】

実施日・・・( )月( )日( )校時  
 授業者・・・( )  
 記入者・・・( )

○ 分かる・できる授業に関して

4 よくできていた 3 まあまあできていた 2 あまりできていなかった 1 できていなかった

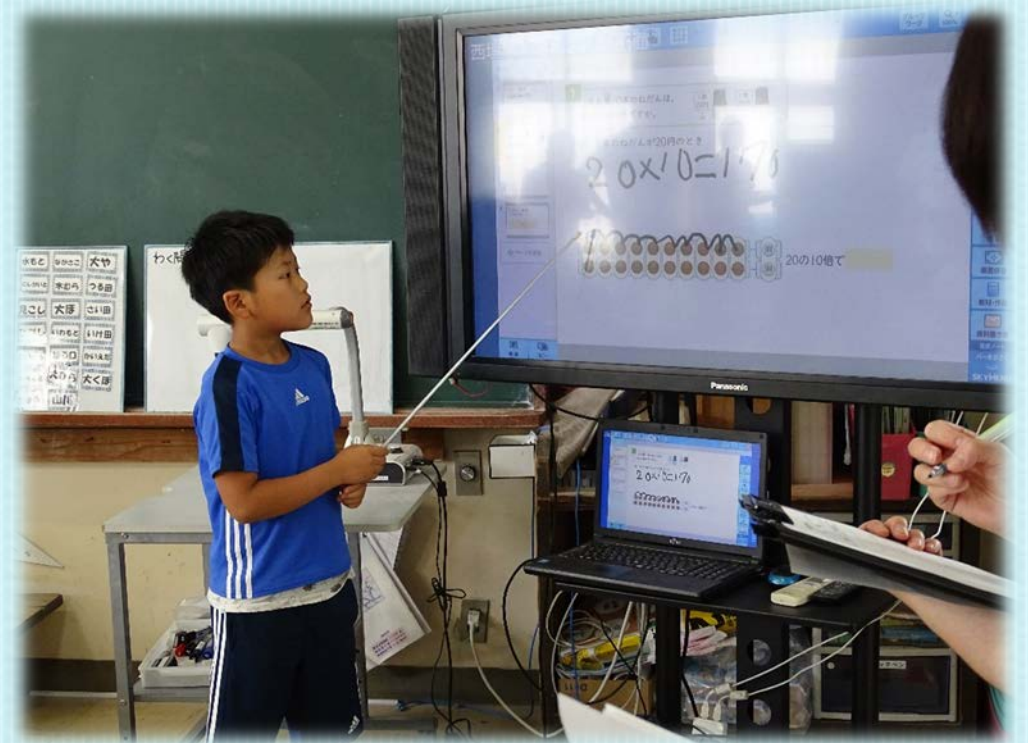
段階	評価項目	評価
導入 (10)分	・ 導入は、簡潔に、効率的に行うことができていたか。	4・③・2・1
	・ 学習課題は、生徒の実態に応じて課題を精選し、焦点化をはかることができていたか。	4・③・2・1
	・ 見通しの段階では、解決することは「何か」を明確にすることができていたか。	4・3・2・①
展開 (25)分	・ 個人思考の時間を十分に確保することができていたか。	4・3・②・1
	・ 自分の考えがまとまらない生徒への手立てを講じることができていたか。	4・3・②・1
	・ 一人一人が自分の思いや考えを表現する場を設定することができていたか。(ペア・グループ・全体)	4・③・2・1
	・ 一人一人の状況を確認に見届ける場面や方法(座席表やタブレットPCの活用等)を考えることができていたか。	4・③・2・1
	・ めあてとの整合性を図り、本時の学習のまとめることができていたか。	4・③・2・1
終末 (5)分	・ 定着や習熟の時間を確保することができていたか。	4・3・②・1
	・ 本時の学習を通して分かったことなどを振り返る時間を設定することができていたか。	4・3・②・1
* 本時の授業を振り返って(記述)	<p>* 教師自身の話し方や机間指導など授業改善に関すること、生徒の様子などについて具体的に記入する。</p> <p>○ 話し合い活動と入札の日は良かったが、発問と制限をせいで、話し合い考えること、焦点化ができていなかった。次に発問と個人で考える視点を与えてから、話し合い活動へとつなげてい。</p> <p>○ 解説と質問の数が少ない。また、生徒の誤答を拾い上げず、生徒のつまずきをしっかり受け止めてほしい。誤答も自分で解説と丁寧にしてあげることが必要。</p> <p>○ 導入時の振り返り、必ずどの小寺生の知識を振り返る問題と刷り上げることも意味する必要がある。</p> <p>※改善すべき点を1つは記入してください。</p>	

自分の授業をビデオで撮影したものを自分でみることで、授業の振り返りを行った。

振り返り後は自己評価を行い、今後の授業改善に生かした。



# 1人1回以上の研究授業の実施





# 研究実践を支える取組

## 学習のきまり(5・6年生)

### 授業の前

- 次の学習のじゅんび、トイレ、水のみをすませる。
- チャイムが鳴り終わるまでに席につく。
- 号令をかける。(立腰)

### 話し方

- はっきりと聞こえる声で話す。
- 相手を見て話す。
- 「です。」「ます。」と最後までしっかり話す。
- 相手を意識しながら話し、大事なことをしっかり伝える。

### 聞き方

- 姿勢を正しくして聞く。
- 話をする人の方を向き、内容を考えながら聞く。
- 返事をしたり、うなずいたりしながら聞く。
- 自分の考えと友達のを比べながら聞く。
- 必要に応じて、メモをとりながら聞く。

### 書き方

- 正しい姿勢で、鉛筆を正しく持つ。
- 字の大きさや書く速さに気をつけていねいに書く。
- 行を変えたり、印をつけたりしながら見やすく書く。
- 習ったかん字を使って書く。

### 話し合いの仕方

- 話し合いのリーダーを中心に学習を進める。
- 自分の考えをもって話し合いにのぞみ、積極的に意見を交流する。
- 疑問点があれば、質問したり調べたりする。

### 発表の仕方

- 「はい」といって、手をまっすぐあげる。
- 指名されたら「はい」と返事をして、立って発表をする。

### 授業の後

- 号令をかける。
- かたづけをする。

## 家庭学習の進め方

(5年・6年)

### 約束

- ◇ 出された宿題は、その日のうちにすませる。
- ◇ 決まった場所で勉強する。
- ◇ 勉強する時は、テレビを消して取り組む。
- ◇ 正しい姿勢で鉛筆を正しく持って集中して取り組む。
- ◇ 宿題が終わったら次の日の準備をする。
- ◇ 机の上や身の回りを常に整頓し、使いやすいようにしておく。

### 必ず毎日すること

#### 宿題

- ◇ 解き方が分からない時もあきらめずいろいろな方法で考えよう。
- ◇ 問題を解き終わったら必ず見直そう。

#### 読み声

- ◇ 声に出して正しくすらすら読めるようになろう。
- ◇ 間を空けるところに気をつけて読もう。
- ◇ 登場人物の気持ちや書き手の意図を考えながら読もう。

#### 日記

- ◇ 習った漢字を多く使って、その日、心に残ったことなどを書こう。

#### 宅習・自学

- ◇ 今、授業で学習しているところや自分が苦手としているところを中心に勉強しよう。

### 学習のめやす

1・2年…30分  
3・4年…60分  
5・6年…90分  
中1年…120分以上  
中2年…150分以上  
中3年…180分以上

### 国語

- ☆ 教科書や漢字ドリルをよく見て、漢字をていねいに練習しよう。ローマ字も練習しよう。
- ☆ 漢字の形や筆順、読み方、送りながに気をつけて練習しよう。
- ☆ 教科書の文を正しく速く視写しよう。
- ☆ わからない言葉は、辞書で調べよう。
- ☆ 習ったところのワーク・プリントなどの学習をしよう。

### 社会

- ☆ 授業で習った内容はその日のうちに復習しよう。
- ☆ 宮崎県の市町村名や全国の都道府県名、世界の主な国の名前と位置を覚えよう。
- ☆ 地形や歴史の年号や人物、出来事を覚えよう。
- ☆ 問題集を使って、くり返し問題を解こう。
- ☆ 写真や絵、図、グラフ、表、地図などからわかったことや考えたことを書こう。
- ☆ 教科書の大事なことや資料から読み取れることをまとめよう。
- ☆ 新聞記事を見て、自分の考えをまとめてみよう。



### 算数

- ☆ 教科書や計算ドリル(自習学習、プリント等)を使って、習ったことをくり返し練習しよう。
- ☆ 計算が速く正しく解けるようになろう。
- ☆ 習った図形やグラフを正しくかけるようになろう。
- ☆ 分からない問題は教科書やノートを見てもう一度解いてみよう。
- ☆ 文章問題では、問題文に線を引きながらしっかり読んで答えよう。(図や表もかこう。)
- ☆ 赤で〇つけてみて、間違いは必ずやり直しをしよう。

野尻小・栗須小

### 理科

- ☆ 授業で学んだことをその日のうちに、教科書やノートを見ながら覚えよう。(自然の仕組みや法則、実験の方法や観察の仕方など)
- ☆ 練習問題を解いて確認しよう。

### 英語

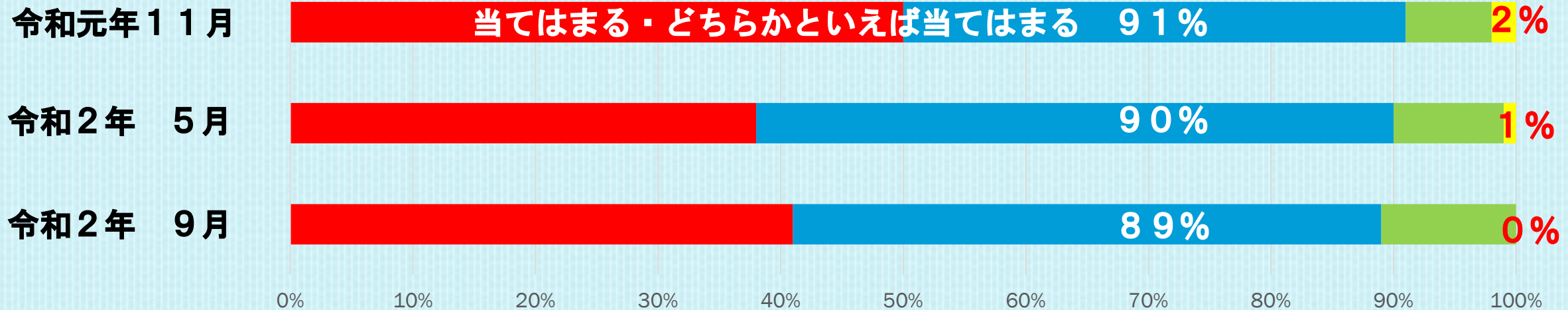
- ☆ その日に習った単語や本文を声に出して読もう。
- ☆ 大事な単語・重要表現・基本文を発音しながら何度も書いて覚えよう。
- ☆ 授業のノートやワークシートを使って、文法事項を復習しよう。

## 【5・6年家庭学習の進め方】

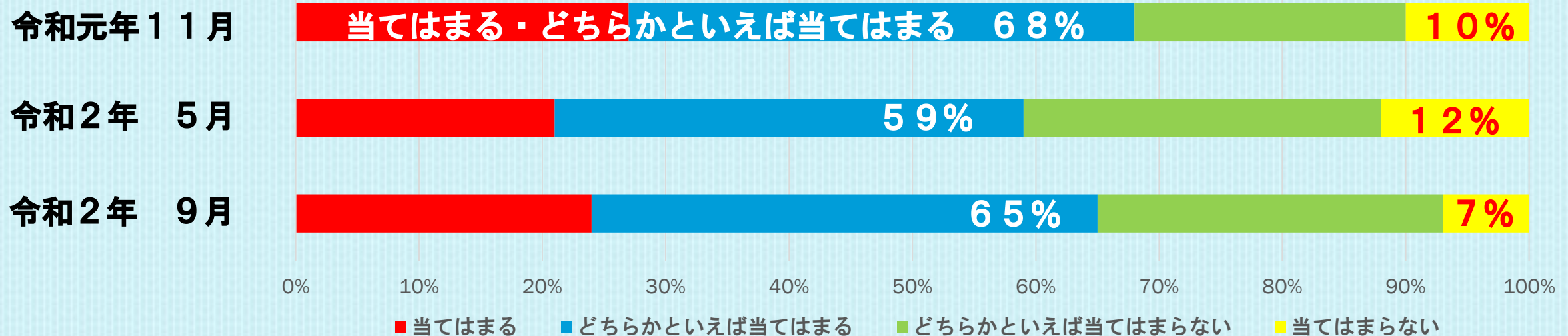
## 【5・6年学習のきまり】

# 研究実践の結果

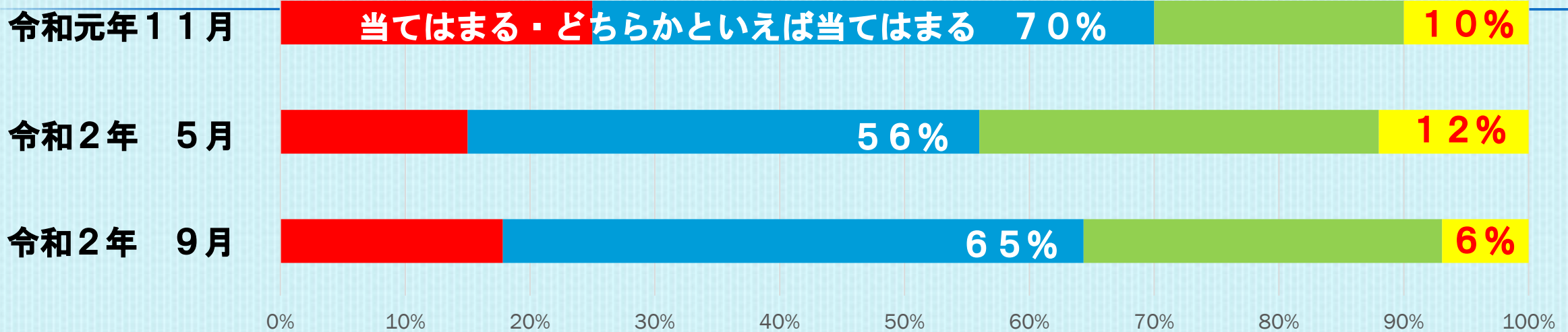
1 授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。



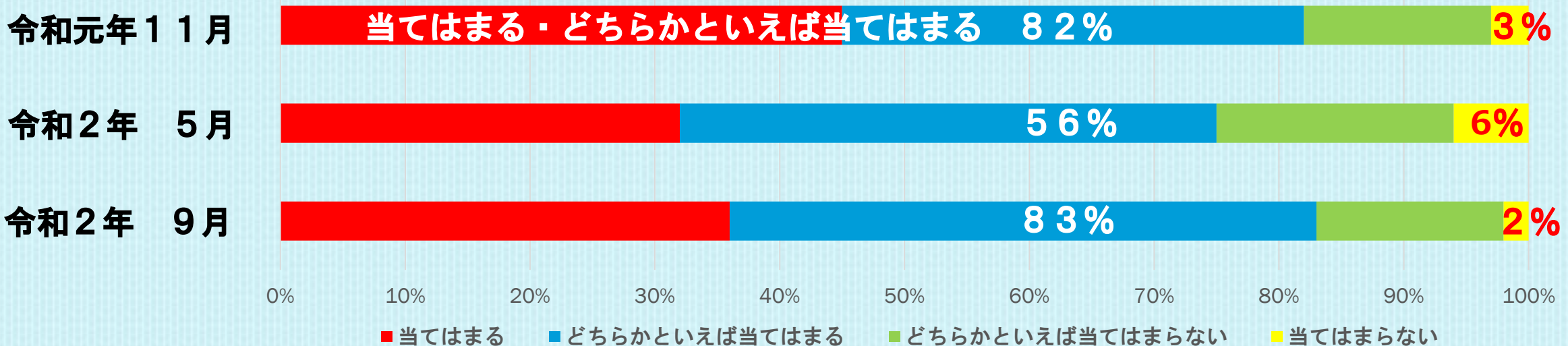
2 自分の考えや意見を進んで発表している。



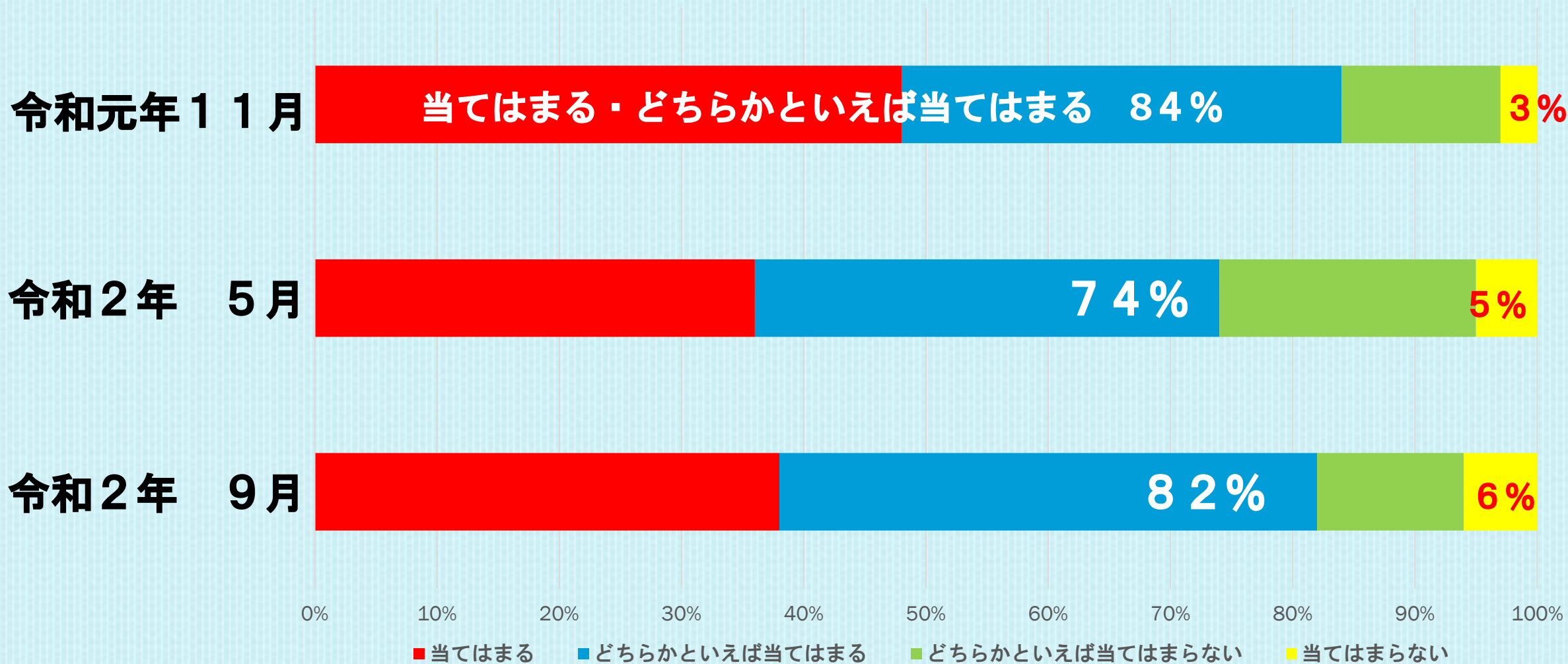
### 3 発表では自分の考えが伝わるよう資料や文章、話の組立てなど工夫して発表している。



### 5 文章や資料を読んで自分の考えをまとめたり、書いたりする活動に進んで取り組んでいる。



## 5 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思う。





# 学力検査（CRT）結果／全国得点率との差

現在の学年	第3学年児童		第4学年児童		第5学年児童		第6学年児童	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
平成30年度	第1学年時							
	+3.9	+6.4	+1.7	+3.1	-7.2	-6.3	-1.9	+2.0
令和元年度	第2学年時							
	+8.2	+9.2	+2.0	+2.4	-5.2	-1.9	+3.6	+6.0
1年間の成果	+4.3	+2.8	+0.3	-0.7	+2.0	+4.4	+5.5	+4.0

## 研究の**成果**と課題

表現力の基礎作り  
話し合い活動の設定

充実した話し合い活動  
児童のより深い学び

タブレットPCの活用

話し合いの活性化  
表現意欲の向上

授業デザイン  
研究授業

授業改善・授業力向上

## 研究の成果と課題

わかった！  
できた！

更なる授業改善・授業力向上

確実な学力の向上

個に応じた指導の充実や家庭  
学習との連携

タブレットPC  
の効果的な活用

教科や学年によつての活用方  
法の研究



# 本日の研究授業について

## 第6学年「比例と反比例」

じゅんぴ 255ページ

### ともなって変わる2つの数量は？

次のことからついて、ともなって変わる2つの数量を見つけましょう。

① 時間がたつと……

② 水を増やすと……

③ 面積を変えずに、縦を長くしていくと……

④ 時間がたつと……

⑤ ①では、時間がたつと、水の深さが変わります。⑥では、……

148

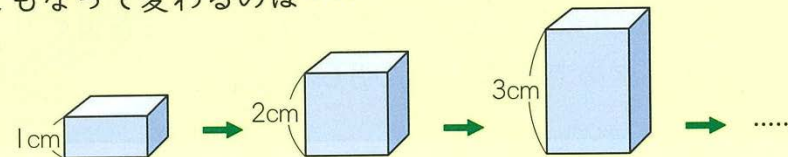
## 表、式、グラフを使って

### 表、式、グラフを使って

1

次の図を見て、ともなって変わる2つの量を見つけ、その2つの量がどのような関係かを調べましょう。

底面積が $2\text{cm}^2$ の四角柱の高さが変わるとき、ともなって変わるのは……



# 学び合いに重点を置いた野尻小の授業デザイン

## 野尻小の授業デザイン ～学級全体の学び合いに重点を置いた学習指導過程（算数科）～

段階	学習活動及び学習内容
導入	<b>1 前時までの学習を振り返る。</b> 【わたっこチェック】 ② わかっていること ③ たずねていること ④ つかう数字 ⑤ こたえの単位 <b>つぶやきタイム①</b> ① 学習問題をノートに書く。(ノートに貼る。) ② (わたっこチェックをする。) ③ ふきだしに思い浮かんだことを書き入れる。 <b>発言タイム</b> ④ 全員で学習問題を読む。 ⑤ ふきだしに書いたことを発言する。
	<b>2 本時の学習について話し合う。</b> ○ 学習問題を確認する。 <b>つぶやきタイム①</b> ① 学習問題をノートに書く。(ノートに貼る。) ② (わたっこチェックをする。) ③ ふきだしに思い浮かんだことを書き入れる。 <b>発言タイム</b> ④ 全員で学習問題を読む。 ⑤ ふきだしに書いたことを発言する。
見通す	<b>3 学習問題について考える。</b> ○ 考えをつくる。
	<b>4 学習問題について話し合う。</b> ○ 考えを高める。 ① 友達の考え(式、答え、図など)を知る。 【複数の考え】 【一つの考え】 ・比較する ・本当に同じ考えか ・分類する ・図や言葉へのこだわり ・関連付ける など
つくる・高める・整理する	<b>つぶやきタイム②</b> ② 自分と友達、友達の考え、友達同士の間で比較し、思い浮かんだことをふきだしに書き入れる。 <b>学び合いタイム</b> ③ (まわりの友達と考えを交流する。) ④ 質問したり説明したりしながら全員で話し合う。 ○ 考えを整理し、まとめる。(ノートも整理) ○ 学び合いを通して分かったことを説明し合う。(アウトプット)
	<b>5 本時の学習をまとめる。</b> ○ まとめを確認する。
まとめ	<b>6 練習問題を解く。</b> <b>7 本時の学習を振り返る。</b> ○ ノートに振り返りを書く。
	<b>終末</b>

### ポイント1 つぶやきタイム① 発言タイム

「つぶやきタイム①」では、児童一人一人が学習問題に対する気持ちや疑問をふきだしに書き、「発言タイム」において、それらを口々に発言し、気持ちや疑問を全員で共有しています。

児童の気持ちや疑問を本時のめあてや学習の見通しにつなげることで、主体的な学びが始まるとともに、発言しようとする雰囲気生まれています。

**つぶやきタイム①**  
 昨日のちがいは？ 何算かな？  
 「～だから〇〇算」  
 何が使え？ わからないこと  
 絵・図・道具など 「あれ？」と思ったこと

**つぶやきの板書の様子**

【つぶやきタイム①の視点】

学習問題と向き合った時に児童が抱く小さな気持ちや疑問、迷い、考えなどは、学ぶ上で大変意義のあるものです。教師は児童一人一人のつぶやきを拾い、認め、価値付けていくことが重要だと考えています。

### ポイント2 つぶやきタイム②

「つぶやきタイム②」では、児童が友達の考えに対する気持ちや疑問、わからないことをふきだしに書き、学び合いに備えています。教師は2～3種類の考えを意図的に取り上げ、つぶやきを書く視点を具体的に示すことで、「学び合いタイム」における話し合いの焦点化を図るようにしています。

児童一人一人のつぶやきを教師が把握することで、発言することが苦手な児童も学び合いに参加できるようにしています。

**つぶやきタイム②**  
 同じ考え？ ちがう考え？  
 【質問】 たぶん  
 なぜ〇〇なの？ こう考えたのかな  
 □□がわからない

**つぶやきの板書の様子**  
 24.5mのロープを5.6mずつに切って、なわとびをつくりたい。何本できて、何m余りですか。  

$$\begin{array}{r} 4 \\ 5.6 \overline{) 24.5} \\ \underline{22\ 4} \\ 21 \\ 4 \text{ あまり} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 4 \\ 5.6 \overline{) 24.5} \\ \underline{22\ 4} \\ 21 \\ \underline{21} \\ 0 \end{array}$$

【つぶやきタイム②の視点】

どこが違うかな？ 余りが「21」と「2.1」で違うね。では、「余りをどうしたらいいか」について、みんな考えてみよう。余りについて気付いたことや疑問に思ったこと、わからないことをふきだしに書いてみよう。

### ポイント3 学び合いタイム

「学び合いタイム」では、児童の思考や対話を促し、話し合いの充実を図るために、ホワイトボードや実物投影機、デジタル教科書などを活用したり、児童の発言の要点を板書したりするなど、考えの可視化を大事にしています。

**【学び合いタイムの様子】**

**【発言の板書の様子】**

「学び合いタイム」では、児童が主体的に話し合うことを大事にしつつ、教師が適宜助言したり意図的指名をしたりするなど、ファシリテーターとして適切に関与することが重要だと考えています。

特に、「児童の思考や対話を促したり、活発にしたりする言葉」を意識して使うようにしています。

**【言葉の例】**  
 ・いい考えなので、誰かもう少し説明してくれないかな？  
 ・ちょっと先生わからないから、詳しく教えて。  
 ・□□さんの考えを聞いてみたいな。  
 ・～と思ったのは、なぜかな？ (どの言葉で？)  
 ・どこで考えが変わったのかな？

### ポイント4 野尻小のノートデザイン

本校では学習指導過程に沿ったノートの形式「野尻小のノートデザイン」を作成し、記録ツールと思考ツールとして機能させ活用しています。対話を通して学びを深める上で重要な役割を果たすと考えます。

**野尻小のノートデザイン 2016**  
 ① 学習問題  
 ② わたっこチェック  
 ③ つぶやきタイム①  
 ④ つぶやきタイム②  
 ⑤ 学び合いタイム  
 ⑥ まとめる  
 ⑦ 練習問題

**1時間で見開き1ページが基本です。**  
 児童は事前にノートの枠組みを書いて授業に臨みます。  
 「野尻小のノートデザイン(指導のポイント)」も作成しています。

## 本日の研究協議題について

児童が学ぶ喜びを味わい、確かな学力を身に付けるための授業づくりはどうあればよいか。

(協議の柱1) 児童の表現する力を高めるための手立て

(協議の柱2) 児童の学力向上のための手立て



# ① 「授業参観カード」の記入

【授業参観カード】

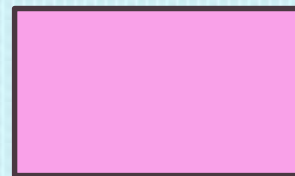
実施日・・・( 11 )月( 6 )日( 5 )校時  
 授業者・・・( )  
 記入者・・・( )

○ わかる・できる授業に関して

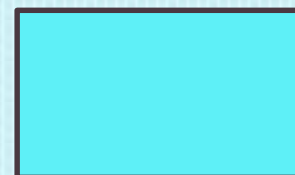
4 よくできていた 3 まあまあできていた 2 あまりできていなかった 1 できていなかった

段階	評価項目	評価
( ) 分	・ 導入は、簡潔に、効率的に行うことができていたか。	4・3・2・1
	・ 学習課題は、児童生徒の実態に応じて課題を精選し、焦点化をはかることができていたか。	4・3・2・1
	・ 見通しの段階では、解決することは「何か」を明確にすることができていたか。	4・3・2・1
( ) 分	・ 個人思考の時間を十分に確保することができていたか。	4・3・2・1
	・ 自分の考えがまとまらない児童生徒への手立てを講じることができていたか。	4・3・2・1
	・ 一人一人が自分の思いや考えを表現する場を設定することができていたか。(ペア・グループ・全体)	4・3・2・1
	・ 一人一人の状況を確実に見届ける場面や方法(座席表やタブレットPCの活用等)を考えることができていたか。	4・3・2・1
	・ めあてとの整合性を図り、本時の学習のまとめることができていたか。	4・3・2・1
	・ 定着や習熟の時間を確保することができていたか。	4・3・2・1

# ② 「付箋」の記入



よかったこと・  
参考になったこと  
など



改善点・アドバイ  
スなど